

平成28年度 第1回鳴門市総合教育会議 議事録

平成28年6月27日午後3時に鳴門市本庁舎3階会議室で開会。

同日午後4時37分に閉会した。

・出席者

(会議構成者)

泉市長、安田教育長、寺田委員、巽委員、加藤委員、小松委員

(会議構成者以外)

市長部局

谷副市長、三木政策監、林事業推進監

三居戦略企画課長、梶原戦略企画課副課長、伊勢戦略企画課主事

教育委員会

大林教育次長、天満教育総務課長、竹下学校教育課長、三栖生涯学習人権課長

八田学校教育課主幹、池脇学校教育課副課長

・傍聴者

3人

・会議は、市長が議事を進行した。

・議事の内容は次のとおりである。

(1) 学力向上について

・高校入試制度について

・鳴門市学力向上推進策について

(2) 学校づくり計画について

・計画の策定について

・三居戦略企画課長は、午後3時、平成28年度 第1回鳴門市総合教育会議の開会を宣した。

・三居戦略企画課長は、鳴門市総合教育会議設置要綱第5条の規定に基づき、議事の進行を市長に求めた。

・市長は、議事(1) 学力向上についての中から高校入試制度について事務局に説明を求めた。

伊勢戦略企画課主事は、公立高等学校入学者選抜試験の状況及びこれまでの対応経緯について説明をした。

・市長は、知事・市町村長会議での発言内容について説明をした後に教育長及び各委員に意見を求めた。

・寺田委員は、進路指導の仕方が変わってきて、個人の意見を尊重しているのも不合格者数が増え

た要因の1つであるとの意見を述べた。

- ・小松委員は、鳴門の子どもの学力を上げることが必要で、定員を増やすよりは、学区を見直すことが必要であるとの意見を述べた。
- ・市長は、今後鳴門市としての結論を出し、それに賛同していただける他の市町村と連携しながら検討していく旨を宣した。

- ・市長は、議事（1）学力向上についての中から鳴門市学力向上推進策について教育委員会に説明を求めた。

竹下学校教育課長は、鳴門市学力向上推進策の概要について説明をした。

- ・市長は、鳴門市学力向上推進策について、教育長・各委員に意見を求めた。
- ・加藤委員は、鳴門教育大学の学生に協力していただいて、補習を実施することで学生にとっても学校にとってもいい効果があるのではないかとの意見を述べた。
- ・巽委員は、家庭学習の時間の少なさが学力の低下の原因の1つに挙げ、放課後学習支援を実施することが大事であるとの意見を述べた。
- ・教育長は、家庭教育について、現状を踏まえて市と教育委員会、学校が同じ認識を持って家庭にお願いしながら検討を進めていく必要があるとの意見を述べた。
- ・市長は、鳴門市学力向上推進策の中に競争という視点を入れてほしいとの意見を述べた。

- ・市長は、議事（2）学校づくり計画について教育委員会に説明を求めた。

竹下学校教育課長は、学校づくり計画についてスケジュール等について説明をした。

- ・市長は、学校づくり計画について、教育長・各委員に意見を求めた。
- ・巽委員は、子どもにとって学校は知識の追求だけではなく、友達との関わりなど社会性を育てる場でもあるので、人数が確保できないのであれば、統合することが望ましいとの意見を述べた。
- ・寺田委員は、徳島県の小中一貫校については、小規模校をまとめるという意味合いで行うことが多く、学力向上の観点からみると、競争がなく、人間関係や成績の順位の固定化等の問題があるので、例えば大規模校と統合することで、人間関係等も変わり、将来的に子どものためになるのではないかとの意見を述べた。
- ・大林教育次長は、学校再編については、ほぼ当初の計画どおり進んでいる状況であり、また幼小中一貫教育については、鳴門市の地域性に重きをおいた学校再編をしていく中での魅力づくりであるとの説明をした。
- ・市長は、北灘の再編について、中学校も小学校もなくなったが、地域の活性化のための様々な取り組みをしていただいているとの説明をした。
- ・教育長は、幼小中一貫教育について、どのようなものを取り入れるかが大事で、それぞれの過程

で教えていくべきことと幼小中で連携し合えることについて検討して、様々な取組を行い、子どもたちを育てていくことが必要であるとの意見を述べた。

- 市長は、今後、就学前教育を含めて、校区制のあり方等について議論していく必要があるとの説明をした。
- 三居戦略企画課長は、午後4時37分に閉会を宣した。